

授業科目名	アントレプレナーシップ論	担当教員	荒木 利雄
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	2 年 第 3 クォーター		
講義内容	アントレプレナーシップは、起業家精神あるいは企業家精神と訳されています。それは、経営環境の変化に対応して、リスクを恐れず能動的な（受け身ではなく自ら）行動や活動する能力や姿勢を表しています。アントレプレナーシップを持ち、新しく事業を起こす行動や活動ができる人をアントレプレナーと言います。 地域経済や地域社会の活性化のために、起業にチャレンジする人やイノベーションを起こす人材が求められています。本授業では、企業事例を用いながらアントレプレナーシップに関連する理論やフレームワークを体系的に学び、事業創造ができるようビジネスプランを作成してもらいます。		
到達目標	1. アントレプレナーシップの意義と課題について自分の言葉で説明することができる。 2. アントレプレナーシップに関連する理論について、他者に説明することができる。 3. ビジネスプランを作成することができるようになり、他者に説明することができる。 4. 社会課題の解決のためにアントレプレナーシップがどのように必要かを理解し、説明することができる。		
授業計画	1. イントロダクション：アントレプレナーシップの基礎理論について アントレプレナーシップとは、アントレプレナーとはどのようなものかについて学びます。また、シリコンバレーのエコシステムについても理解を深めます。 2. 企業とアントレプレナーシップ：スタートアップとコーポレート・アントレプレナーシップについて、企業事例を用いて学びます。 3. 地域活性化と社会課題の解決①：ソーシャル・アントレプレナーシップについて、企業事例を用いて学びます。外部講師の招聘を予定しています。 4. 地域活性化と社会課題の解決②：ファミリーアントレプレナーシップについて、企業事例を用いて学びます。 5. 起業のための経営戦略：事業創造プロセスについて理解を深めると共に、 起業のために必要となる経営戦略に関する基本的な理論やフレームワークについて学びます。		

	<p>6. 起業のためのマーケティング：価値創造のためのマーケティング戦略について理解を深めると共に、起業のために必要となるマーケティング戦略に関する基本的な理論やフレームワークについて学びます。</p> <p>7. 起業のための顧客開発モデル、資金調達、および組織づくりと人材育成：顧客開発や資金調達方法、そして組織デザインについて理解を深めると共に、デザイン思考の基礎について学びます。</p> <p>8. ソーシャルビジネスの起業と社会的インパクト：スタートアップ・エコシステムについて理解を深めます。また、ビジネスプランの作成のための基礎的な理解を深めます。</p> <p>9. ビジネスプランの作成①：エフェクチュエーション理論とデザイン思考について理解を深めます。また、ビジネスプランを作成していきます。</p> <p>10. ビジネスプランの作成②：ビジネスモデル・キャンバスとリーン・キャンバスとデザイン思考についてさらに理解を深めます。また、ビジネスプランを作成していきます。</p> <p>11. ビジネスプランの作成③：ビジネスプランを作成すると共に、プレゼンテーション資料を作成してもらいます。</p> <p>12. ビジネスプランのプレゼンテーションと全体の振り返り</p>
事前・事後 学習	<p>事前学習として、予め担当教員が作成したテキスト（パワーポイント）を確認し、受講者の疑問点や質問事項を整理してください。</p> <p>事後学習として、授業を振り返り、リフレクションペーパー（振り返りレポート）を提出いただきます。</p>
テキスト	担当教員が作成したパワーポイントを、テキストとして使用します。そのパワーポイントをダウンロードし、授業に参加してください。
参考文献	山田幸三・江島由裕（編著）『1からのアントレプレナーシップ』碩学舎・中央経済社，2017年。
成績評価 の 基 準	授業への参画度（グループワーク及びグループディスカッション）（20%）、振り返りレポート（リフレクションペーパー）（30%）、ビジネスプラン（50%）により評価します。
履修上の注意 履修要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークやグループディスカッションを行いますので、主体的かつ積極的に参画してください。</li> <li>・リフレクションペーパーでは、授業内容、グループディスカッション、及びグループワークなどで学んだ内容について振り返ってください。</li> </ul>
実践的教育	該当しません。
備考欄	ビジネスプランの作成に時間を要する場合には、これを優先して授業を進めます。